

8月11日19:00～  
東北10市町で同時に  
犠牲者への追悼と  
復興への願いを込めて  
計2万発の大輪の花火が  
打上げられました。  
坂本龍一さんの演奏する  
「赤とんぼ」を  
始まりの合図に、

- 宮古市田老地区 ●
- 岩手 山田町 ●
- 大槌町 ●
- 釜石市 ●
- 大船渡市三陸町 ●
- 気仙沼市 ●

# 去りゆく夏の東北



大槌町

we support!



復興支援  
かゆいばい  
すけきた  
しんぶん

こんな時だからこそ「まつり」も!

海や山、その恵を与えてくれた神と祖先への感謝をこめて行われる「まつり」。

被災地域では、開催場所が津波の被害を受けたり、神輿や太鼓が流されてしまったところもたくさんありますが、それでも、こんな時だからこそ、自分達の力でまつりをやろう!という頼もしい活動が、この夏東北のあちこちで立ち上がりました。

## LIGHT UP NIPPON

多賀城市 ●

南相馬市 ●

福島

会津美里町 ●

いわき市 ●



気仙沼市

震災のため自粛された

各地の花火大会で使用される予定だった花火が東北の夜空を一斉に彩りました。



(実は意外と細部にこだわってます!)

## 花火大会の起源

1733年(享保18年)関西の飢饉、江戸でのコレラ流行などで世相が暗くなっていた中、将軍吉宗が死者の慰霊と悪霊退散を祈り、両国大川(=隅田川)の水神祭を催し、それにあわせて披露した大花火が、現在まで続く隅田川の川開き花火の起源となったといわれています。

こちらは、RQ歌津での第一回子どもキャンプで再現された「三嶋大社大祭」初めは、ボランティアが持ち込んだ太鼓・笛のお囃子で行進しよう、というシンプルなアイデアでしたが、子どもたちが思いのほか正確に祭を覚えていたため、半日がかりで獅子頭や神輿を手作りし、見事な行列になりました。モノは失われても、心に「祭」は生きています。

処暑 朔日



ニュース5910

夏も休まず/冬に備えて

RQでは 地域の祭・開催応援団

\*あの「暖助」生産継続中 & 耳よりにユース!!\*



ジョー・パラワイス(長野県) 0267-26-5011

「黒糖しんぶん」3号でご紹介した、調理ができて風呂も沸かせるストーブ「暖助(ダンスケ)」このたび一般向け仕様2タイプが開発&販売されることになりました!売上の一部が被災地用暖助の運搬費にあてられます。147,000円/106,000円

として、子どもたちに浴衣を贈ることにしました。(8月3日募集終了)打ち上げ花火に照らされて、おめかしした子どもたちの笑顔が輝いたら、大人達の心もきっと明るくなることでしょう。東北はもうすぐ秋!



夏!子どもたちに浴衣・草履を贈ろう。

ボランティア支援基金はじまりました [東部地区] ラ・ティエダ西表 宇南風見 大原港ターミナル(竹富町観光協会、八重山観光フェリー) 大富売店 [西部地区] ゆりみな(上原港ターミナル) スーパー川満 西部歯科診療所 santa nu neene カフェなかゆくい ダイビングチームうなりざき 民宿バイン館 民宿あけほの館 民宿母家 マリンロッチャアトク 西表島エコツーリズム協会 紅露工房 イルンティ フタテムラ 星砂スーパー 金城旅館

黒糖作戦に引き続き募金箱を設置していただき ありがとうございます!